

商業

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
商業	財務会計 I	4	3年次・L群	選択

目 標	履修の条件・連絡
1 簿記で学んだ知識や技術を基礎にして、株式会社及び財務諸表の作成などに関する知識や技術を習得する。 2 将来、社会や企業の一員としての立場から、財務諸表から得られる情報を活用して物事の判断能力や処理能力などを養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次に「簿記」を修得している。</li> <li>・「原価計算」と同時履修。</li> <li>・四年制大学（経営学部等）の推薦条件になる場合がある。</li> <li>・就職で事務職希望の生徒に有利。</li> </ul>

使用教科書 (出版社)	新財務会計 I 新訂版 (実教出版)	副教材 (準備物)	標準検定簿記問題集全商1級 会計
----------------	-----------------------	--------------	------------------

学 習 の 年 間 計 画	期	月	学習内容 (単元・項目)	学 習 の ね ら い
	1 学 期	4月		第I編 会計の基礎
5月			第1章 企業と会計 第2章 株式会社会計 第3章 会計法規と企業会計制度	
6月			第II編 貸借対照表 第1章 資産の意味・分類と評価 第2章 流動資産	
7月			第3章 固定資産と原価償却 第4章 繰延資産	
7月			第5章 負債	
2 学 期	9月		第6章 資本 第7章 貸借対照表の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資産・負債・資本に関する知識をもとに、区分表示された勘定式と報告式の作成方法を習得させる。</li> <li>・財産法と損益法に触れ、損益計算の意味と考え方について理解させるとともに、発生主義、実現主義などの損益計算に関する基準について理解させる。</li> <li>・営業損益、営業外損益、特別損益の概念を理解させ、具体的な例を用いて分類や各項目の処理法を習得させる。また、利益の処分及び損失の処理に伴う一連の処理法も習得させる。</li> <li>・経常損益と特別損益に関する知識をもとに、報告式の損益計算書の作成方法を習得させる。</li> <li>・財務諸表の意味、見方、連結財務諸表について取り扱い、財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得させることをねらいとしている。</li> </ul>
	10月		第III編 損益計算書 第1章 損益計算の意味と基準	
	11月		第2章 経常損益と特別損益 第3章 損益計算書の作成	
	12月		第IV編 財務諸表の活用 第1章 財務諸表の意味と役割 第2章 財務諸表の見方 第3章 連結財務諸表	
3 学 期	1月		検定問題練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的問題から検定模擬問題、過去の検定問題を中心に分野別の問題を系統的に練習していくことによって、総合的な理解力を深める。</li> </ul>
	2月		家庭学習	
	3月		家庭学習	

学 習 評 価	観	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	規 準	企業会計の役割や制度及び財務諸表の作成について関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動に活用できる実践的な態度を身に付ける。	企業会計や財務諸表の作成、活用に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、会計における知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付ける。	企業会計や財務諸表の作成、活用に関する技術を身に付け、ビジネスの諸活動に活用し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	企業会計や財務諸表の作成、活用に関する知識を身に付け、会計の特質について理解する。
	手 段	・授業態度 ・提出物	・小テスト ・定期考査	・課題の取組状況 ・提出物	・小テスト ・定期考査
	各学期や年間の学習状況の 評価方法	・平常点（提出物、課題、小テスト）30%、定期考査70%			

学習上の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進度が速いので、毎時間の授業を大切に学習すること。</li> <li>・検定前や長期休業中の補習に欠席しないこと。</li> <li>・6月（全商）、1月（全商）に検定試験が実施される予定。</li> </ul>
-------------	---